

悔い改めについて

目次

- Step 1 主の道を用意すること
- Step 2 放蕩息子に学ぶ悔い改め
- Step 3 神に立ち返ること
- Step 4 悔い改めの方法 その1
- Step 5 悔い改めの方法 その2
- Step 6 前に向かって歩む

Step1 主の道を用意すること

① マルコ1：14～15を読んでください。

(15節)
何をして福音を信じなさいと言われましたか？

悔い改めて

② 使徒2：37～38を読んでください。

(38節)
罪を赦していただくためには何をしなければなりませんか？

悔い改めて、
イエス・キリストの名によってバプテスマを受ける

③ IIペテロ3：9を読んでください。

(9節)
主がすべての人に望んでおられることは何ですか？

だれも滅びることなく
すべての人が悔い改めに進むこと

④ ルカ3：3～6を読んでください。

(4節)

荒野で叫ぶ者の声は何と言っていますか？

主の道を用意せよ

主の通られる道をまっすぐにせよ

(5節)

まっすぐな道とは、どのような道ですか？

谷は埋められ

山や丘は低くなる

曲がったところはまっすぐに

険しい道は平らに



心を「まっすぐ」にするとはどういう意味だと思いますか？
「谷」や「丘」は何を意味すると思いますか？
あなたの心に「谷」や「丘」はありますか？

正しい答えはありません。自分の考えを書いてください。

例えば…

真っすぐにするとは、正直になること

谷は、すぐに落ち込むこと、自信がないこと

山は、高慢になること

他にも考えられると思います。

悔い改めが先なのです！

荒野で叫ぶ者の声とは、バプテスマのヨハネのことです。
ヨハネは「罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマ」を宣べ伝えていました。
「悔い改め」が「罪の赦しに導く」のです。

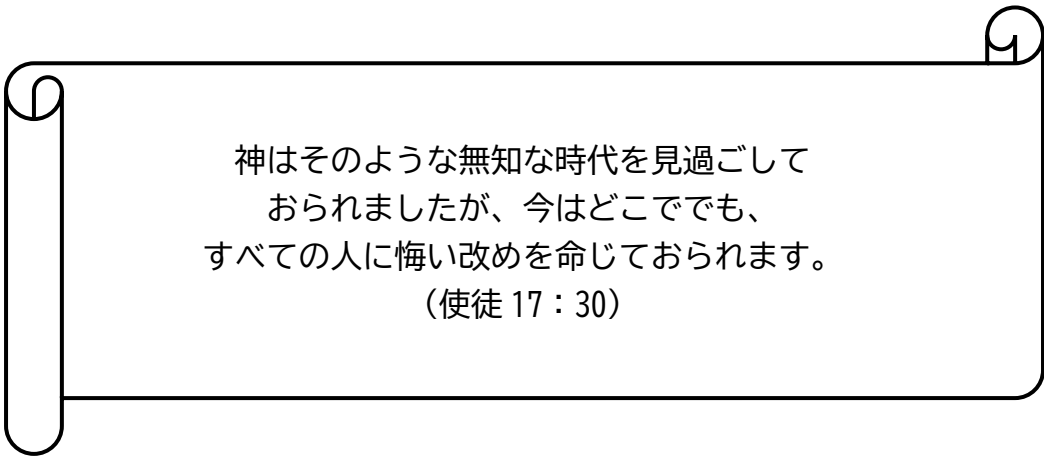
私たちは心の道を「まっすぐ」にしなければなりません。
曲がった道やでこぼこ道は補整されなければなりません。

主は、すべての人が「悔い改め」に進むことを望んでおられます。

すべての人の罪が赦されるためです。

イエス様は「悔い改め」そして「福音を信じなさい」と言われました。
「悔い改め」が先なのです。

私たちは、イエス様の福音を信じて「永遠のいのち」を得ます。
しかし、「悔い改め」ないなら「信じる」ことはできません。



神はそのような無知な時代を見過ごして
おられましたが、今はどこでも、
すべての人に悔い改めを命じておられます。
(使徒 17 : 30)

Step 2 放蕩息子に学ぶ悔い改め

① ルカ15：11～24を読んでください。

(13節)

弟息子は財産をどうしましたか？

湯水のように使ってしまった

(16節)

何もかも使い果たした弟息子はどのような状態でしたか？

豚が食べているいなご豆で

腹を満たしたいと思うほど飢えていた

(18節)

我に返った弟息子は何を決心しましたか？

立って、父のところに行こう

そして、罪を犯したと告白しよう

(20節)
彼(弟息子)は立ち上がってどこに向かいましたか？

自分の父のもとへ向かった

(20節)
父親は彼(弟息子)を見つけてどうしましたか？

彼を見つけて、かわいそうに思い
駆け寄って首を抱き、口づけをした



なぜ、弟息子は我に返ったのだと思いますか？
あなたは我に返った瞬間がありますか？

正しい答えはありません。
自分に重ねて考えてみてください。

もし、グループで学んでいるならば、みなで証をされるのも良い
と思います。もちろん、強制ではありません。

一人で学ばれているなら、「我に返った瞬間」のことをもう一度、
考える機会としてください。

大切なことは、「自分の以前の状態」をはっきり認識することです。
そこには、もう二度と「戻りたくない」と思うことです。

放蕩息子にみる「悔い改め」の姿

① 我に返りました

自分の状態に気が付きました。
飢えて、みじめで、孤独な自分を見ました。
このままではダメだと悟りました。

② 考えを改めました

自分の生き方は間違っていると認めました。
この生き方を変えたほうが良いと思いました。
父のところに帰ったほうがよいと考えました。

③ 決断しました

生き方を変えようと決めました。
この場所から去ろうと決めました。
父のところへ帰ると決めました。

④ 実際に向かいました

立ち上がって父のところへ向かいました。



私たちは、弟息子の行動から学ぶことができます。
悔い改めには4つのことが必要です。
一つでもステップを飛ばしてはなりません。
つまり、よく考えないで「悔い改め」の表明だけをしても
意味がないということです。
その表明は長続きしないでしょう。
よく「考えて」そして「決断」してください。

天の父なる神様は、喜んであなたを迎えてくださいます。

Step 3 神に立ち返ること

①エペソ2：1～3を読んでください。

(1節)

私たちは、どのような者であったと言われていましたか？

自分の背きと罪の中に死んでいた者

(2節)

かつては、何に従って歩んでいましたか？

この世の流れ

空中の権威を持つ支配者

不従順な子らの中に今も働いている霊

(3節)

私たちは、どのように生きていましたか？

何を受けるべき子らであったと言われていましたか？

自分の肉の欲のままに生きていた

御怒りを受けるべき子らであった

② 使徒26：14～20を読んでください。

(18節)

誰の支配から神に立ち返るのですか？

サタン

③ ルカ1：71を読んでください。

(71節)

この救いは何からのすくいですか？

私たちの敵からの救い

私たちを憎むすべての者の手からの救い

④ I ペテロ2：9を読んでください。

(9節)

神様は私たちを何の中に召してくださいましたか？

ご自分の驚くべき光の中

救われるとは立ち位置が変わること ～天国人になります～

「悔い改め」とは、向きを変えて神のもとへ行くことです。
私たちは、どこから神のもとへ行くのでしょうか。
私たちは、サタンの支配から神へ立ち返るのです。
私たちは「悔い改めて」「福音を信じること」によって救われます。
救われるとは、「敵」から救われるということです。
「敵」とはサタンのことです。
神は、私たちを「闇」から「ご自分の光の中」へと召してくださったのです。
私たちの「立ち位置」は変わりました。
覚えてください。
「悔い改め」によって神のもとへ来たら、「この世」のものではありません。
闇から光へ移されました。
サタンの支配から神の統治へと移されました。
「この世の民」から「神のものとされた民」とされたのです。
向きを変えて走っていく先は、唯一の神のもとです。
私たちは、「神のものとされた民」つまり「天国人」となったのです。

しかし、私たちの国籍は天にあります。
そこから主イエス・キリストが救い主として
来られるのを、私たちは待ち望んでいます。
(ペリピ3:20)

Step4 悔い改めの方法 その1

～ことばを用意する～

① Iヨハネ1：9を読んでください。

(9節)

どうすれば不義からきよめられますか？

自分の罪を告白するなら

② ローマ10：9～10を読んでください。

(9節)

どのようにすれば救われますか？

イエスを主と告白し

神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら



イエス様を主と告白するとは、どういう意味だと思いますか？
あなたは、イエス様を主と告白しましたか？

最も真剣に考えるべき質問です。

「主」と告白するとは、「イエス様が主であることに同意する」ということです。

「主」であるとは、どういう意味でしょう？

どうぞ考えてください。

「主」には「従う」必要があります。

イエス様に「従う」とはどういう意味かよく考えてください。

③ ホセア14：1～3を読んでください。

(1節)

イスラエルは何につまずいたと言われていましたか？

自分の不義

(2節)

何を用意して立ち返れと言われてますか？

ことばを用意して

(2節～3節)

イスラエルは何と言う必要がありましたか？

すべての不義を赦してください

アッシリアは私たちを救えません

私たちは馬に乗りません

自分たちの手で造ったものに「私たちの神」と言いません



イスラエルは、「アッシリア」に頼っていました。つまり、その当時の「強い国」に頼りました。自分たちの力(馬)で生きようとしていました。また、自分たちが造った偶像を拠り所としていました、彼らは、唯一の神以外に「救い」はありませんと告白する必要がありました。

「ことば」を用意する

神様は、イスラエルに「ことば」を用意して立ち返れと言われました。私たちも神様に立ち返る際に「ことば」を用意しなければなりません。「ことば」を用意するとは「告白」することです。そして、「告白」するとは、神様の言われることに「同意」ということです。

① 自分の罪を告白する

- 自分の罪を認める
- 神様の御前に罪を言い表す
- 赦しを乞う

② イエス様を主と告白する

- イエス様以外に救いはないと告白する
- 今まで自分がより頼んできたものには頼らないと宣言する。
- イエス様を自分の「主」とし従うことを宣言する

全能なる唯一の神様

今まで自分勝手な道を歩んできたことを認めます。

イエス様のほかに救いはないことを信じます。

私の罪をお赦してください。

私は、イエス様のほかに救いを求めません。

自分の力に頼って生きることをやめます。

全能の神様以外に頼るものはないことを宣言します。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

これは、簡易的な祈りです。

あなた自身の「ことば」を用意して御前に出てください。

罪の告白は具体的にすべきです。

罪の名前(マルコ7:21~23 を参考に)をあげて言い表してください。公の場でする必要はありません。

一人で神様の御前に心を注ぎだして祈ってください。

Step5 悔い改めの方法 その2

～縁を切ること～

① ガラテヤ5：19～24を読んでください。

(19節～21節)

肉のわざとはどのようなものですか？

淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、
ねたみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、遊興など

(22節～23節)

御霊の実とはどのようなものですか？

愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制



私たちは「肉のわざ」と縁を切る必要があります。
パウロは、はっきりと言っています。

「このようなことをしている者たちは神の国を相続できません」

② 使徒19：17～20を読んでください

(19節)

信仰に入った人たちは何をしましたか？

自分たちがしていた行為を告白し明らかにした

(20節)

魔術を行っていた人たちは何をしましたか？

その書物を持ってきて焼き捨てた



「肉のわざ」の中で、あなた自身に深く関係のあることはありますか？
何か処分すべきものがありますか？

じっくりと、自分に正直に考えてみてください。

皆の前で発表する必要はありません。

また処分すべきものを血眼になって探す必要はありません。

まずは、示された物の処分を考えましょう。(相談してください)

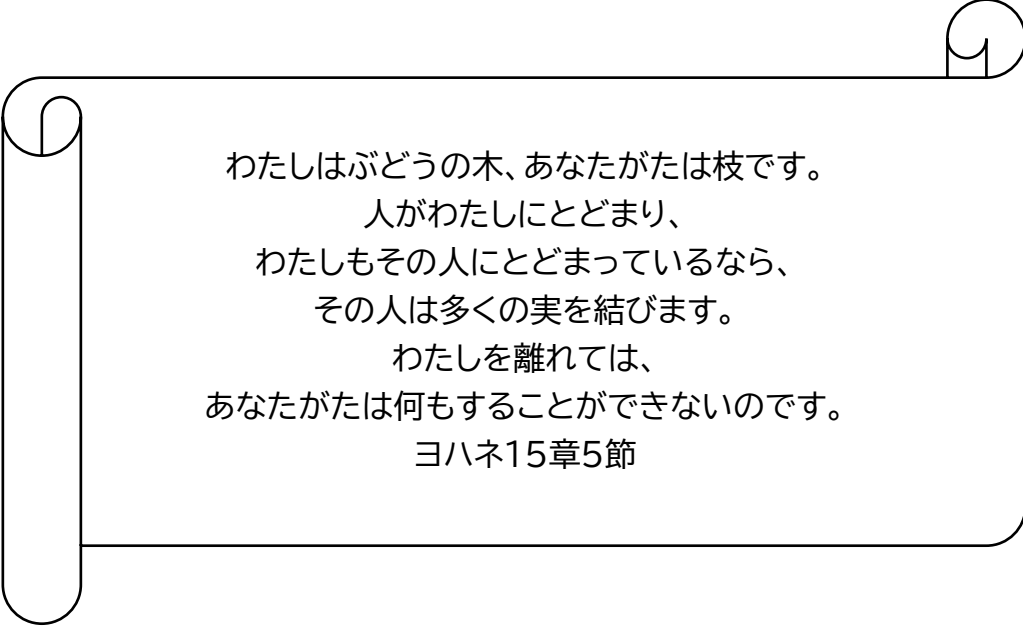
心の中にある「肉のわざ」を見つけたら、それもすべて処分します。

すべて「十字架につけた」と告白しましょう。それで完了です。

必要のないものは捨てます！

私たちは、悔い改めてイエス様に従うものとなります。
そうすると、私たちの生き方は変わります。
「肉のわざ」は、すべて十字架につけました。
私たちは「御霊の実」を結びながら生きていきます。

偶像に関わるもの、占いや魔術に関わるもの、不道德・不品行に関わるものは、処分しましょう。
それらは持つておく必要のないものです。
もし処分すべきものが手元にあるならば、牧師もしくは、信頼できる兄姉に相談してください。一緒に祈って処分してくれるでしょう。
見られるのが恥ずかしいものに関しては、この限りではありません。
こっそり処分しても差し支えないと思います。
暴くことが目的ではないからです。
関係を断ち切ることが目的なのです。



わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。
人がわたしにとどまり、
わたしもその人にとどまっているなら、
その人は多くの実を結びます。
わたしを離れては、
あなたがたは何もすることができないのです。
ヨハネ15章5節

「関係を断ち切ること」や「偶像礼拝について」は、また別の学びを用意しています。
詳しいことは、そのシリーズで学びましょう。

Step6 前に向かって歩む

①マタイ27：3～5を読んでもください。

(3節)

ユダはイエス様が死刑に定められたことを知ってどうしましたか？

後悔し

銀貨30枚を返した

(20節)

ユダの告白に対し彼ら（祭司長たち）は何と言いましたか？

われわれの知ったことか

自分で始末することだ

②Ⅱコリント7：8～10を読んでもください。

(10節)

世の悲しみは何をもたらしますか？

死をもたらします

③ピリピ3：13～14を読んでください。

(13節)

パウロは、何を忘れて前のものに向かうと言っていますか？

うしろのものを忘れ

③詩篇103：8～12を読んでください。

(8節)

主は、どのような方ですか？

あわれみ深く、情け深い

怒るのに遅く、恵み豊かである

(12節)

主は、私たちの背きの罪をどのようにされますか？

東が西から遠く離れているように

背きの罪を私たちから遠く離される



主は、罪を蒸し返して「責める」ことは決してされません。
私たちが「うしろのもの」は忘れましょう。
自分で「始末」をつけることはできません。
救いは「行い」ではないのです。

うしろのものは忘れます！

悔い改めて神のもとに来たならば「うしろのもの」は忘れるのです。

「悔い改めた」なら前を向きます。
方向を変えて進むのです。振り返ってはなりません。

たとえ、つまずいて転ぶことがあったとしても、前に向かって転びます。
主が受け止めてくださいます。
沈みそうになったら、手を伸ばすのです。必ず、イエス様がその手をつかんで
引き上げてくださいます。

あなたを責め立ててくる言葉に怯えて後戻りしないでください。
サタンは、悔い改めて従う決心をした人を責め立ててつぶそうとするのです。

聖霊様は、あなたが「悔い改めるべきこと」を示してくださいますが、決して
責め立てることはされません。

覚えていてください。
私たちは自分で自分の責任を取ることはできません。
「自分で始末せよ」という声はサタンのものです。
誰も「行い」によっては救われないからです。

もうダメだと思うことがあったとしても、罪悪感で押しつぶされそうになった
としても、それでも決して「後戻り」しないでください。

思い出してください。
「罪を犯さない」という決心をしたのではありません。
「神様のもとに行って、もう離れない」という決心をしたのです。

どんなことがあっても、絶対にイエス様から離れないでください。
あなたから離れない限り、イエス様は決してあなたを見捨てられません。

私たちは一緒に進みましょう。
うしろのものは忘れて、前に向かって！
天の御国を目指して進みましょう。